
リンク

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リンク

【Nコード】

N0411T

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

とある高校の教室内で1つの携帯ゲームが流行り始めた。

その名前は「リンク」

始めのタイトル画面は一見変哲もないただのミステリーゲームだった。

だが主人公、ふじわらしゅうぎ藤原修綺は知らなかった。

そのゲームが

“呪いのゲーム”だとはー…

序章（前書き）

この小説はミステリー小説です。

呪いのゲームなどの残酷な表現が含まれています。

苦手な人は読まない方をお勧めいたします。

序章

全てが神妙に動き始めていた。

静かに、静かに、

その“時”がくるのを待っていたかのように。

A高の3年3組はその対象だった。

何故、この高校なのか

何故、この教室なのか

……全てはこのゲームに記されている。

ただこのゲームは

誰もクリアした事がない、呪いのゲーム。

3年3組の生徒みんなが

このゲームをやり始めた。

「クリアしたら100万円

ゲームオーバーは脱落

よって、脱落者は死亡します」

携帯画面に書かれたその文字は、3年3組の生徒全員が登録した瞬間に現れた…

1-1 (1) (前書き)

きつとそれは仕組まれていた。

―史上最悪の携帯ゲーム

1- (1)

― 妙に教室が騒がしかった。

だが誰もこの異変に気づいていない。

いつも何かと世話を焼く学級委員長も、平然と自席に腰を下ろし本を読んでいる。

何かおかしい、そう指定する人も現れない。

「なあなあ修司、これ見ろよ！超ヤバくねえ？」

突然、藤原修司^{ふじわらしゅうじ}に声が掛かった。

寝だるそうに修司は体制を起こす。

「……………起こすんじゃないよ」

「その低血圧、治したら？」

「いつも休日昼まで寝てる奴に言われたかねーよ」

「お互い様だっつーの」

はあ、と修司は溜め息を漏らす。

目の前の男は軽く微笑して修司を見る。

「礼二^{れいじ}、何用があつて此処に來たの」

「あ、そういう、これだよ」

篠田礼二^{しのだれいじ}は手に持っていた雑誌を修司の前に差し出す。

“流行りの携帯ゲーム「リンク」“

雑誌の内容はそれだった。

どこかで聞いた事のある名前。
ただどこから思考回路しても明るい扉は見えて来ないらしい。
修司は諦めて雑誌に目を通した。

“このゲームはクラスメート全員が登録して初めて成り立つものです”

“一般の携帯ゲームとは違い、携帯でも3Dを体感できる新開発されたゲームです”

“尚、登録したクラスメートの皆さんは携帯の電源を切ったり、ゲーム自体を止める事は禁止されています”

“登録費…クラスメート全員の××”

最後は分からなかった。
文字が薄くて読み取れなかった。

「ど？やりたくねえ？」

「…………別に」

「3Dを体感？実際動くわけじゃ無いだろ」

「おま…最後まで読めって！」

修司は礼二に言われた通りに雑誌の一番最後の行を見る。

“このゲームは

実際に自分達が体験するゲームです“

修司は言葉を詰まらせた。

というより息が上手く続かないといった所。

実際に体験できるゲームなんて、この世の中にあるのだろうか。

「で、どうするよ」

「……」

やりたくないと言ったら嘘になるだろう。

修司は意外に冷静だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0411t/>

リンク

2011年10月9日02時31分発行